

本時のねらい (6/14時)  
・2位数÷2位数の除法の計算について、仮商が過小商になる場合、仮商を修正して商を見つける筆算ができる。

評価規準 ①<表現・処理>  
①2位数÷2位数のわり算で見当を付けた商が小さすぎたときは仮の商を大きくして計算することができる。

段階	学習活動	個のつまずきに対する指導
準備	<p><b>素材提示</b></p> <p>・問題を提示するところから入るが、「昨日の学習とどこが違うか」を考えるよう伝え示す。</p> <p>※いきなり問題提示したい。</p>	<p>①「見当をつけたわる数の大きさを比べてみよう？」を問う。※前時は小さい 本時は大きい</p>
問題	<p><b>問題提示</b></p> <p>85÷27の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p>・昨日と似ているところは2けた÷2けたのわり算だ。 ・わる数の見当は四捨五入して大きめになる ・2けた÷2けたのやり方が使いそうだ。 ・今日学習課題は何だろう？</p>	<p>C1：持てない。 → 商が大きすぎたときは商を小さくするという前時に関することを示す。</p>
課題	<p><b>課題作り</b></p> <p>商の見当をつけるためにわる数を大きくしたときの筆算のしかたを考えよう。</p>	<p>C2：前時との違いが見つけられない。 → ①「見当をつけたわる数の大きさを比べてみよう？」を問う。※前時は小さい 本時は大きい</p>
考え	<p><b>個人追求 全体交流</b></p> <p>① 仮商を30として計算し、あまりからみて商を修正する</p> $\begin{array}{r} 2 \qquad 3 \\ 27 \overline{) 85} \rightarrow 27 \overline{) 85} \\ \underline{54} \qquad \underline{81} \\ 31 \qquad \qquad 4 \end{array}$ <p>・あまりに「27分」あるから商を1加算する。</p>	<p>C3：商の見当をつけずに商を立てようとする。 → ①「なぜ、その数字を立てたのですか？」から見当をつけるよさに導く</p>
交流	<p>仮商に何がたつのかを迷う C5</p> <p>あまりをそのまま31にしている C6</p>	<p>C5：仮商に何が立つのかを迷う → ①27をいくつと考え、いくつ分あるか問う</p>
まとめ	<p>② 仮商を30として計算し、商を修正せず計算する</p> $\begin{array}{r} 3 \\ 27 \overline{) 85} \\ \underline{81} \\ 4 \end{array}$ <p>商を修正せず正しい商を立てる C7</p> <p><b>まとめる</b></p> <p>わる数が大きい筆算では、商が小さすぎたときは商を大きくしていくと今までの筆算同じようにできる。</p>	<p>C6：あまりをそのまま31にしている → ①あまり31の中にある数はまだ含まれていないかを考えさせる。</p>
力試し	<p><b>評価問題</b> 鉛筆5 (1)～(4)で計算する方法を確かにする。</p> <p><b>発展問題</b></p> <p>・94÷15を示し、85÷27の筆算のしかたと異なる点を考えさせる。</p>	<p>C7：商を修正せず正しい商を立てる → ①どのように見当をつけたのか？→90÷30=3の見当のつけかたを出す</p>
振り返	<p><b>自己評価をする</b> 自己評価カードに書き込む。</p>	<p>仮商修正の回数に気がつかない → あまりの中にある数がいくつ分あるか考えさせる。</p>